

養鶏業者が中心となり飼料用米を核とした循環型農業を構築（姫路市）

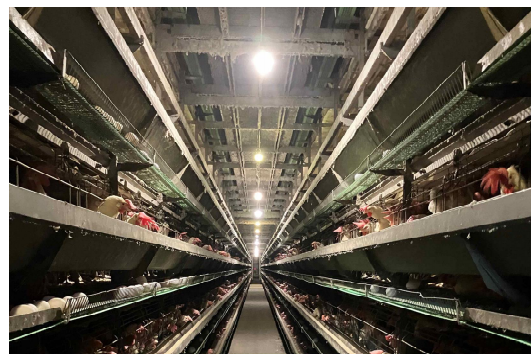
地域の耕種農家と畜産農家との耕畜連携を推進し、資源循環と鶏卵のブランド化



姫路市



【飼料用米生産ほ場】



【養鶏場】

1. 取組概要

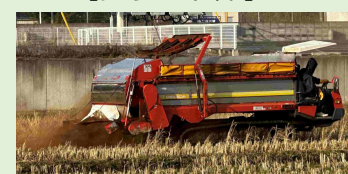
- 養鶏事業等を行う株式会社藤橋商店が、2007年、グループ企業に農業部門を立ち上げ、養鶏部門で製造される鶏糞堆肥を土づくりに活用し飼料用米を生産。生産された飼料用米は、配合飼料メーカーで配合（飼料用米10%程度）し、グループ企業の養鶏場の採卵鶏に給餌する循環型農業に取り組む。
- 当初は採卵鶏に給餌する飼料用米の生産は農業部門のみで行っていたが、地域の耕種農家と連携することにより飼料用米の生産拡大と供給の安定化を図り、飼料コストを低減。
- 農業部門は、耕種農家の収穫作業を受託するとともに、飼料用米の稲わらを収集し、近隣の肥育農家へ供給。
- 養鶏部門と肥育農家で生産された堆肥は、飼料用米の生産に利用し、化学肥料の使用量低減を図る。散布作業は、養鶏部門と農業部門で受託。
- 飼料用米の地域への更なる普及推進を図るため、耕種農家、肥育農家や配合飼料メーカー等と「飼料米生産活用協議会」を2015年に設立。



【配合飼料】

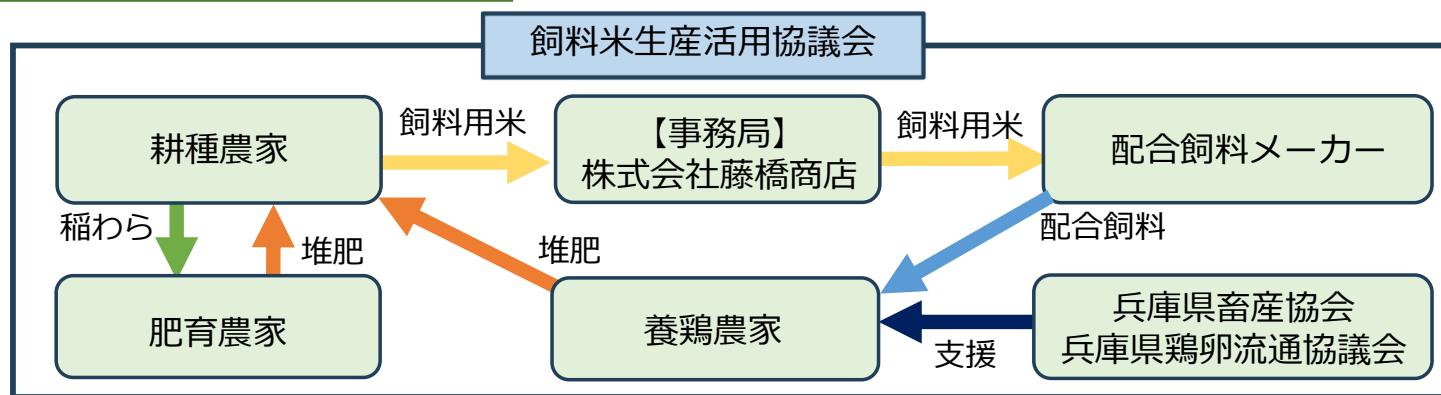


【ブランド卵】



【堆肥散布】

2. 循環型農業の体制図



3. 実績と効果

- 飼料用米栽培面積：令和2年56haから令和6年155haに拡大。
- 飼料用米契約農家数：令和2年15戸から令和6年44戸に拡大。
- 耕種農家の飼料用米生産コストの削減、畜産農家の肥育コストの削減等に繋がっている。
- 今後は、米粉サイレージ（SGS）に取り組むことにより、更なる飼料コストの削減、自給濃厚飼料による高栄養な肥育の実現を目指している。